

1面：富崎師団長着任・渡辺副師団長着任
2面：即応態勢訓練（1普連）・小泉防衛大臣視察（32普連）
3面：師団重迫撃砲競技会（34普連）・連隊小部隊行動競技会（1後支連）
4面：中隊訓練検閲（1高大）
第1施設大隊創立74周年記念行事（1施大）
山林火災に伴う災害派遣（1飛）・八丈島派遣演奏会（1音）
5面：陸士特技課程「偵察」（1偵戦大）
陸曹候補生履前教育（1通大）・NBC災害総合訓練（1特防）
重迫撃砲競技会における兵站支援部炊事班給食支援（1師付）



令和8年5月25日 第33号

師団長統率方針「精強師団の育成」
師団長要望事項「一所懸命」

陸上自衛隊第1師団広報紙

発行：第1師団司令部総務課広報班
発着：第1師団懇話会
所：東京都練馬区北町4-1-1
電話：03-3933-1161（内線2150～2157）
専用線：8-31-2156

富崎陸将が第43代師団長に着任
「一所懸命」を要望事項に師団精強化を目指す

第43代第1師団長に、富崎隆志（とみさき たかし）陸将が5月6日、防衛研究所副所長から着任した。着任式において富崎師団長は、全隊員に「一所懸命」を要望し、任務遂への決意を示した。

富崎師団長は、練馬駐屯地到着後、駐屯地慰霊碑及び第1師団慰霊顕彰室において献花を行い、殉職隊員に哀悼の誠を捧げた。続いて儀仗隊による隊による栄誉礼を受け、着任行事が執り行われた。その後、練馬駐屯地営庭

最後に富崎師団長は、隊員諸官の先頭に立ち、

ともに精強で、明るく風通しの良い師団を築いていきたい」と述べた。

富崎師団長の訓示を受け、師団の隊員は責任感と頭角師団の誇りを胸に、一人一人が「一所懸命」任務に向き合う決意を新たにした。



栄誉礼を受ける富崎陸将

を強調した。その上で、着任にあたっての統率方針として「精強師団の育成」を掲げ「あらゆる任務を完遂し、国民の負託に応え得る師団の確立」を目指す考えを示した。また「今現在も戦争を起こさせない戦いに挑んでいるとの認識を持つ（しつ）」と述べ、各級指揮官に対し、創意工夫をもって部隊を練成して士気旺盛で団結固な部隊の育成を要望することにも、全隊員に対しては「一所懸命」を要望し、「それぞれが自己の任務と役割を理解し、それを命がけで全うせよ」と述べた。



厳粛な雰囲気の中、巡閲を行う富崎陸将

第43代 第1師団長
富崎 隆志

生年月日 昭和43年3月21日
出身地 山口県
学歴等 法政大学（平成4年3月卒業）
自衛隊生徒（第29期）

主要経歴

平成27年8月	西部方面通信群長	（健軍）
平成29年3月	陸上幕僚監部人事課人事計画課長	（市ヶ谷）
平成31年4月	自衛隊大阪地方協力本部長	（大阪）
令和2年8月	北部方面総監部幕僚副長	（札幌）
令和4年3月	高等工科学学校長兼ねて武山駐屯地司令	（武山）
令和5年4月	第11旅団長	（真駒内）
令和6年3月	東部方面総監部幕僚長兼ねて朝霞駐屯地司令	（朝霞）
令和7年8月	防衛研究所副所長	（市ヶ谷）

一刻も早い鎮火と安全確保へ

令和7年12月から令和8年1月にかけて、神奈川県、山梨県及び静岡県で相次ぎ発生した林野火災に対し、各自治体からの要請を受けて師団は第34普通科連隊及び第1飛行隊を派遣するとともに、第1ヘリコプター団、東部方面航空隊、第12ヘリコプター隊、東部方面混成団、第4施設群、東部方面特科連隊と連携した災害派遣活動を行い、早期鎮火に向けて、迅速かつ確かな対応に努め、関係機関と連携した災害対応に万全を期していく。



12ヘリのCH-47Jによる空中消火活動（山梨県上野原市）

渡辺 亘紀 陸将補

副師団長兼ねて練馬駐屯地司令に着任

第43代第1師団副師団長兼ねて第47代練馬駐屯地司令に渡辺 亘紀（わ）が3月23日、東北方面総監部幕僚副長から着任した。

以後、状況報告を受けるとともに主要施設を確認し、駐屯地の現況を把握した。尚、駐屯地司令着任に当たって前司令を踏襲して「地域と共にある美しい駐屯地」を要望事項とした。



生年月日 昭和45年7月18日
出身地 福岡県
学歴等 防衛大学校（平成7年3月卒業）

主要経歴

平成28年	3月	北部方面総監部防衛部訓練課長	（札幌）
平成30年	3月	第12普通科連隊長兼ねて国分駐屯地司令（国分）	
令和2年	3月	教育訓練研究本部訓練評価部共同訓練企画室長	（目黒）
令和3年10月		第2師団司令部幕僚長	（旭川）
令和4年12月		北部方面総監部防衛部長	（札幌）
令和6年12月		東北方面総監部幕僚副長	（仙台）

1普連

連隊即応態勢訓練

災害対処の実働性を向上



駐屯地から各拠点へ前進する隊員

連隊は令和8年3月11日、首都直下型地震を想定した即応態勢訓練を実施した。

訓練当日は非常呼集、緊急登庁、出動準備、各拠点まで徒歩又は災害用自転車により機動する一



東京消防庁と連携した救助訓練

連隊は2月5日から2月24日までの間、沖縄中部訓練場において令和7年度方面狙撃集合訓練を担当部隊として実施した。

訓練には1普連・2普連・13普連・30普連・32普連・34普連の隊員が参加し、実際の環境下での訓練を通じ首都防衛に求められる狙撃手としての練度を向上させた。

方面狙撃集合訓練



32普連

小泉防衛大臣視察

部隊・隊員の現状を理解、隊員を激励



大臣と懇談後に記念撮影

令和7年12月13日、小泉防衛大臣が「現場の空気感及び教育訓練の実状を理解するとともに、各種体験の終了を通じた隊員との交流により士気の

高揚を図り、報道発信を

理解するとともに、各

を通じて国民に陸自の活動

を伝える」ことを目的として大宮駐屯地を来訪された。

当日は、駐屯地概要説明、災害（CBRN）派遣従事者・協力団体との懇談、第32普通科連隊及び化学学校の部隊視察並びに隊員家族との交流が

実施された。

連隊は、装備品展示・訓練展示（レンジャー隊員による障害通過運動）を担当した。

展示会場（訓練場）に到着した大臣は、隊員一人一人に声をかけ激励した。

20式小銃や9mm拳銃SFP9といった新装備品の説明に対して熱心に質問される等、高い関心を示された。レンジャー訓練で使用する重量約40kgの背のうを体験する姿は、繰り返し、各メディアで取り上げられ注目を集めた。

さらに隊員との懇談を通じて現場の声に耳を傾けるとともに、任務に励む隊員を激励された。本視察を通じて、第一線部隊の現場、駐屯地及び隊員・隊員家族の実情を理解され、連隊の解されることにより、連隊の士気向上に貢献することができた。



40kgの背のうを体験する大臣



大臣と隊員との懇談

炊事・市街地武装走競技会

武装走で疲れた体に元気がでる食事を提供

連隊は令和8年2月5日、朝霞訓練場で炊事・市街地武装走競技会を実施した。

市街地武装走競技会では、市街地環境下で求められる至近距離射撃の精度や市街地で想定される各種障害で構成されたコースを走りゴールまでのタイムや各種障害での減点項目・射撃での命中精度等により競い合い、接戦の末に僅差で第5中隊が優勝を勝ち取った。



1秒でも速く（担架搬送）



各中隊の調理の様子



優勝した第4中隊が調理したすた井

炊事競技会では、「戦力回復に効く中隊自慢の献立」を課題に競技に挑んだ。また、連隊協力会等を招致し審査員として

参加をいただいた。競技は「すた井・コールスロー」を調理した第4中隊が優勝を勝ち取った。

全自衛隊レスリング大会

団体総合の部「二連覇」



試合後の様子

（下段右から2番目：井ノ口3曹）

32連隊は2月21日、朝霞駐屯地で実施された第28回全自衛隊レスリング大会に参加した。前大会「優勝」チームである連隊の選手たちは、二連覇をかけて並々ならぬ思いで本大会に臨んだ。

結果は次のとおり。

階級	順位	選手
85kg級 優勝	1位	村山3曹
80kg級 優勝	1位	井ノ口3曹
85kg超級	3位	大橋1曹
70kg級	4位	中山2曹
65kg級	4位	外村3曹

今年度はチームの要でもある井ノ口3曹に密着し、試合後のインタビューにおいて「チームとして、昨年を引き続き優勝を目標に掲げ、初心者メンバー

が多い中でも限られた時間で練習を重ねて大会に臨みました。その結果、団体総合では優勝を果たすことができました。また、初めてレスリングに挑戦し入賞した選手もあり、楽しんで臨む姿が印象的でした。来年は、選手層を厚くしパワーアップして三連覇を目指します」と力強く語り、更なる高みへの挑戦を誓った。

34普連

念願の優勝を果たす
令和7年度 師団重迫撃砲射撃競技会

第34普通科連隊は2月24日から26日の間、北富士演習場で実施された「令和7年度師団重迫撃砲射撃競技会」に参加し、平成28年度以来9年ぶり



優勝を祝した中隊長の胸上げ

に優勝を果たした。競技会には1師団隷下の34普連（練馬）、32普連（大宮）のほか、31普連（武山）、普通科教導連隊（滝ヶ原）の重迫撃砲中隊が参加し120mm迫撃砲による射撃の速度及び精度を競い合った。雨交じりの濃霧の中、中隊は統裁部の状況付与に基づき、目標に対する前進観測班の弾着の観測、射撃指揮班による射撃命令及び分隊による射撃の

イベントの盛會に寄与
富士山樹空の森まつり



目標に向け迅速に射撃する分隊

三者連携をもって迅速かつ精密な射撃を行った。これまで悔しい思いをしてきた中隊は、今度こそは中隊長を核心に一致団結し、終始緊張感を保持しつつ気迫に満ちた号令と動作により、済々と競技に臨んだ結果、念願の栄冠を勝ち取ることができた。

34普連は3月21日、御殿場市の富士山樹空の森で実施された「第6回富士山樹空の森まつり」に協力し、自衛隊への理解促進を図るとともにイベントの盛況に寄与した。

当日は富士山音楽隊による演奏や市民団体によるステージショーが行われる中、連隊はらっぱ隊によるらっぱ吹奏、高機動車の体験乗車、野外炊事車両を使用した豚汁約1000食分を調理し振舞ったほか、ゆるキャラを紹介する大人気のステージイベントでは駐屯地キャラクターのイタヅマンも登場してイベントを盛り上げた。

訪れた大勢の市民等は各種イベントを堪能しつつ、連隊の軽快ならっぱ吹奏に歓声を上げて拍手を送っていたほか、イタヅマンと記念撮影をしたり、自衛隊特製の豚汁の試食や体験乗車等、自衛隊気分を満喫し存分に楽しんでいた。

1後支連

分隊員一人一人が輝く主役
令和7年度連隊小部隊行動競技会

連隊は2月24日及び25日、練馬駐屯地において令和7年度連隊小部隊行動競技会を実施した。この競技会は、後方支援連隊の特性である諸職種で構成された部隊に小部隊の行動に係る練成機会を付与し、部隊の足腰を鍛えて小部隊行動に係る練度の底上げを図ることを目的に各個戦術教練及び分隊戦術教練に関する基礎的練度を競うことを大きな柱として実施された。あまり聞き慣れない競技会だがこの競技会を企画・運営した主務者である連隊第3科の川岸1尉は「任務の本番は一度きりとの意識の下、分隊長からの命令下達及び戦

隊長による指揮要訣の実行により小部隊としての技能向上を図るとともに、部隊の団結や士気高揚の機会として活用してもらいたい。」と話す。今競技会は、識能試験の部と部隊行動の部に分かれ、識能試験の部では防衛法制を中心とした有事の際に行動する上で必要な知識を問われ、部隊行動の部では、小部隊として様々な状況下でどのような行動をとるか問われる。

部隊行動の部で編成された分隊は、1個分隊8名全10個分隊が参加した。統裁部、各分隊、分隊長からの命令下達及び戦

闘指導が実施され、通信器材、火器等の点検、化学攻撃時に使用する防護マスクの装面等の確認を作戰準備行動の一環として実施、その後統制に基づき、既存施設に前進する。

ここからは分隊が2組に分かれ、例えば1組であれば不審物を発見したが発見後すぐに爆発し隊員が負傷したという想定で負傷者の処置や状況に対応していく。もう1組は彼我不明者を発見時にどのような行動を取っていくかを付与する。

様々な状況をクリアしていく全10個分隊は、雨の降りしきる寒練馬駐屯地のグラウンドではあったが熱い戦いが繰り広げられた結果、第1位は輸送隊、第2位は第1整備大隊となった。

第1位の座を勝ち取った輸送隊の分隊長を務めた小野塚2曹は「天気は悪かったが状況に夢中になり気にならなかった。零細時間を活用し一人一人に各人の状況を練成させたことが自ら指揮を執るに当たって気持の余裕につながった。創隊以来初の競技会であつたが、状況に対し分隊長を核心として隊員一人一人が対応して任務を達成していく姿はまさに「力の結集」であつた。今年度もまた連隊の新たな歴史の1ページを築いた頭号支援連隊は、いかなる任務にも対応していく。」

た。」と競技会を振り返った。この競技会を通じて連隊長（後川1佐）は「隊員個々から分隊レベルまで各種戦術行動に習熟させ、団結・規律・士気を高めることで兵站・衛生支援における小部隊の分権的な運用への反映が可能であると考えている。」と話した。また「競技会方式を企画し、各部隊が真剣に戦術教練に取り組むことで足腰を鍛えることができたことに感謝する。」とも話し選手及び統裁部を労った。

初代部隊行動の部第1位は輸送隊

各種戦術行動を演練
連隊レンジャー練成訓練

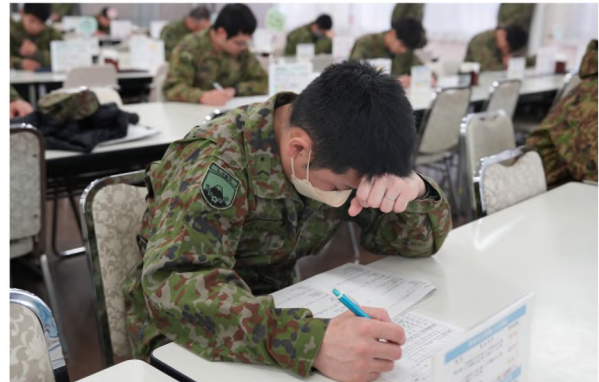
34普連は1月26日から3月6日までの間「令和7年度連隊レンジャー練成訓練」を実施した。本訓練は連隊のレンジャー基幹要員に対してレンジャー隊員として必要な識能及び資質の維持・向上を目的として行われ、山地潜入、空路潜入、射撃、爆



空路潜入するレンジャー隊員



警戒しながらの命令下達を行う分隊



識能試験の部で難解な問題に挑む



初代部隊行動の部第1位は輸送隊

1 高大

中隊訓練検閲
極寒の陣地防御

第1高射特科大隊は、令和8年1月9日から1月23日までの間、東富士演習場において、指揮情報中隊、高射中隊及び直轄小隊に対し中隊訓練検閲を実施して師団陣地防御における作戦遂行能力について練成訓練の成果を評価するとともに、その進歩向上を促し、基礎となる部隊の練度の向上を図った。

本訓練検閲は、「運用の基本原則の具現」「自己の役割の理解」「安全管理」の3点を統裁官の要望事項として実施された。各中隊は、氷点下に気温が下がる中、作戦における対空火力の重要性を深く認識し、練成の成果を遺憾なく発揮するとともに、あらゆる過酷な状況下においても基本・基礎の徹底、築城・偽装等の対空防護、不断の警戒及び欺騙により、任務を完遂して中隊訓練検閲を終了した。

通信のプロを目指して

本部管理中隊通信小隊の無線通信手であり、本検閲において優秀隊員として表彰された山口士長

Q 今後の目標は？

陸曹として通信のプロフェッショナルになることです。

失敗したことをどのようにして次に活かせるかを考え、後輩隊員が同じ失敗をしないようアドバイスをし、通信小隊の能力向上に貢献、寄与していきたいです。



富士を背に対空戦闘する近SAM



中継をする山口士長

1 施大

3つの競技会で盛り上げる
第1施設大隊創立74周年記念行事



漕舟競技会で優勝した第1中隊（4年ぶり）

舟になったが、誰もが寒さを忘れる熱いレースを繰り広げた。

炊事競技会では中隊ごとに「カツカレー」を作り、会場付近は食欲をそそるカレーの匂いに包まれた。

隊員や隊員家族、各協力団体の方々に工夫を凝らした料理を提供し、安全で美味しい自衛隊の料理を楽しんでもらった。

施設技術競技会は、最先任上級曹長企画の下、大隊として初めて実施した競技会であり、移動式クレーンの操作、大型ダンプの旋回脱出、グラップルの操作技術の高さを競いあった。



施設技術競技会で優勝した第3中隊



炊事競技会で優勝した第2中隊（連覇）

1 飛

山林火災に伴う災害派遣
3カ月で5回出動 安全に任務を完遂

第1飛行隊は1月9日から同月22日にかけて山梨県上野原市及び静岡県藤枝市、2月6日から同月11日にかけて埼玉県秩父市、2月20日から26日にかけて茨城県常陸太田市、そして3月17日から19日にかけて静岡県北杜市において発生した山林火災に伴う災害派遣（空中消火活動）に従事した。この間、第12ヘリコプター隊及び第1ヘリコプター



煙幕の中、UH1-Jによる消火活動



日の出前の離陸・飛行支援

団の一部の部隊の配属を受け、CH47及びUH1を用いて、空中消火を行い、消火及び延焼の抑制に寄与した。この際、現場では気象・地形条件の影響を考慮するとともに安全確保に留意し活動を行った。また消防機関及び自治体との連携を密接に行い、効果的な消火を実施して地域住民への被害を最小限にすることができた。

年始から引き続いた山林火災だったが、隊員一丸となり災害派遣を安全に終えることができた。一連の活動を通じ、山林火災における初期消火の重要性を再認識することにも、それを可能にするため迅速にLA及び取水点を調整するフローについて教訓を得ることができた。飛行隊は引き続き即応態勢を保持することにも、様々な事態に即応し、民生の安定に寄与していく所存です。

1 音

第1音楽隊は3月20日、昨年台風被害に遭った、東京都八丈島で八丈町多目的ホール「おじゃれ」では、八丈高校の生徒たちも交えて演奏会を行った。第1音楽隊の魅力を生かして、存分に楽しんでもらえるよう工夫を凝らした内容で、行進曲「自由の鐘」「ウィ・ウィ・ウィ」など、幅広いジャンルの楽曲を演奏し、アンコールの「マツケンサンバ」では、松平健に扮した隊員とダンサーが客席を練り歩き会場を大いに盛り上げた。演奏会終了後の見送りに参加した際は、昨年の台風被害に遭われた方から、「逆に元気をもらった。ありがとう。」と声を掛けられ励みになった。



八丈高校生たちと会場広がるフリーズア

は、八丈高校の生徒たちも交えて演奏会を行った。第1音楽隊の魅力を生かして、存分に楽しんでもらえるよう工夫を凝らした内容で、行進曲「自由の鐘」「ウィ・ウィ・ウィ」など、幅広いジャンルの楽曲を演奏し、アンコールの「マツケンサンバ」では、松平健に扮した隊員とダンサーが客席を練り歩き会場を大いに盛り上げた。演奏会終了後の見送りに参加した際は、昨年の台風被害に遭われた方から、「逆に元気をもらった。ありがとう。」と声を掛けられ励みになった。



会場を練り歩くマツケンサンバ隊

1偵戦大 陸士特技課程「偵察」 「共に育む」「闊達」「不撓」

第1偵察戦闘大隊は1月14日から3月4日まで、の間に、朝霞駐屯地及び東富士演習場等において、陸士特技課程「偵察」教育を実施した。

本教育は斥候員として必要な知識及び技能を修得させるとともに、当該特技に必要な資質を涵養することを目的としており、師団隷下の各普通科連隊から助教支援を受けつつ28名の被教育者を受け入れ28名の斥候員を育成した。

この間、課業内外を問わず教官、先任助教、営内班長等により被教育者の身上（心情）を把握して教育を阻害する事項を排除し、教育に専念できる環境を醸成した。



斥候訓練

各部隊の新たな「耳目」として帰隊させた。

各種訓練

偵察中隊は3月5日、立川駐屯地において第1飛行隊と合同訓練を実施し、戦闘基礎技術指導を共有することにより、市街地等における戦闘能力の向上に寄与した。



戦闘中隊は3月17日、北富士演習場において60mm迫撃砲射撃を実施した。本訓練では、通常の砲手検定にあわせて、練成射撃として陣地変換を伴う射撃を実施し、分隊としての連携要領を向上させた。



1通大 陸曹候補生履前教育を実施 陸曹としての自主性・積極性を磨く



旺盛な戦闘訓練

令和8年3月16日から31日までの間、大隊の陸曹候補生4名に対し、令和7年度第2回陸曹候補生履前教育を実施した。教育課程入校に万全を期すため基礎課目を中心に約2週間、陸



障害通過運動



曹候補生として必要な識能を修得させた。特に自主性・積極性を涵養するため、陸曹候補生課程履修科目のほか、統制を必要最小限にして、間稽古などについては被教育者自ら課目選定して実施をした。

本教育を通じてできたことやできなかったことがより明確になり、入校前に準備する事項を整理することができた。

入校のスタートラインに立つに当たり「理想の陸曹像を目指し研鑽するぞ」と彼らの姿が桜花爛漫の季節に輝いていた。（写真左）

駐屯地スポーツ大会で優勝



得点王の志田2曹（左）



優勝の記念撮影

第1通信大隊本部及び本部管下の志田2曹を中心に昼休憩及び課外等を活用して練習した成果を発揮し、令和7年度駐屯地スポーツ大会（フリースロー）にて優勝した。決勝戦は第1後方支援連隊補給隊と激突し、お互いに得点を重ねたが、最後は志田2曹（今大会得点王）のシュートが決まり3対2で接戦を制した。

1特防 NBC災害総合訓練 関係機関と協同対処

第1特殊武器防護隊は2月6日、東京消防庁（立川市）の第8消防方面訓練場において令和7年度NBC総合訓練に参加した。

本訓練は、東京消防庁が主催し、東日本大震災における福島原発対応の風化防止を目的として実施されており、N災害（放射性物質に起因する災害）に関する知識と技術の向上及び関係部外機関との連携強化を目標として参加した。

今回の想定は、化学工場が爆破テロを受け、放射性物資及び化学薬品による毒性ガスが流出、規模が甚大



東京消防庁の現地指揮所において情報共有を図る偵察班長

汚染地域の偵察を実施する偵察班員

1師付 6000食以上の給食を提供 兵站支援部炊事班給食支援

第1師団司令部付隊は2月22日から27日までの間、北富士演習場を実施された令和7年度師団重迫撃砲射撃競技会の企画統裁部及び兵站・救護支援部を支援した。

中でも兵站・救護支援部の炊事班として、梨ヶ原廠舎地区に食堂を開設し、第1普通科連隊及び第32普通科連隊からの支援を得て、管理小隊が給食全般を担当し、本競技会期間中における射撃参加部隊、統裁部等要員への給食を延べ6000食以上提供した。

管理小隊からの参加者は、主に令和7年の転入者などに野外炊事を経験させ、今後における小隊の野外炊事能力及び炊事組長などを通じて実員指揮能力の向上を図るとともに、徹底した衛生管理を行い、食品衛生を継続した。また主食に関しては、富士山からの水源に近い北富士演習場地区の良質な水と米の精米年度や季節の特性に応じた温度などの微妙な水加減を計算して調理に当たるとともに、野菜などの裁断においては、その技術の向上により「家庭に



主食の蒸らしを実施する主食組



隊長に状況を説明する小隊陸曹

頭号

清談

「信頼」

第一通信大隊長
2等陸佐 石井 輝彦

令和7年8月1日に第33代第1通信大隊長として着任しました石井2佐です。

「システム通信が途切れたら、部隊が止まる。」第1通信大隊は、その止まってはならないものを支える部隊です。

民間の通信事業者と同じく、ユーザー目線で安定した通信を提供することが必要であり、着任に当たり要望事項を「信頼」としました。自衛官とし

て国民から信頼されることはもとより、支援する各部隊から信頼を受ける部隊になる思いで要望しています。

大阪府大阪市で育ち、小学生時代は野球、中学生時代はハンドボールに明け暮れている学生時代でしたが、高校受験勉強の一環で陸上自衛隊少年工学校（現在の陸上自衛隊高等工学校）の試験を受験し、合格したことをきっかけに、心機一

転、誰とも違う新たな道に進むことに魅力を感じてそのまま陸上自衛隊生徒として入隊することになりました。

曹士として11年、幹部として16年勤務をし、入隊から27年を過ぎましたが、これまで多くの仲間と信頼関係を築いてきました。

信頼を得るには、「誠実」「能力」「一貫性」が大切であり、日々の小さな行動の積み重ねで築

かれますが、逆に一度の不誠実で大きく損なわれるものでもありません。辛く、厳しい任務において、逃げずに立ち向かっていく誠実な姿勢が最も信頼を得ることができると思っています。

今後とも、「第1通信大隊がいれば安心だ」といわれることを目指して、誠実に任務にまい進してまいります。

最先任
上級曹長
頭
COMMAND SERGEANT MAJOR「ギザギザの10円玉」
第1後方支援連隊
大関 正樹 准陸尉

令和5年8月から第1後方支援連隊最先任上級曹長を拝命しています大関准尉です。

先日コンビニでの買い物後、お釣りを財布に入れた際、緑（ふち）がギザギザの10円玉が入っていることに気付きました。この10円玉は、通称「ギザ10」と呼ばれ、昭和26年から33年の7年間のみ製造された硬貨で、私が子供の頃はよく見かけたものです。今ではめっきり目にする機会も少なくなり、久しぶりに見たなあと製造年を見ていると、自衛隊が発足した昭和29年製です。この10円玉は、自衛隊と共に生まれ、これま

で72年もの間、人から人へと渡り続け、手に取った人々の生活の支えの一部となっていたことでしよう。

我々、自衛隊という組織も誕生から今日まで、大勢の隊員や関係者等によって、その時代時代で、取り巻く環境が変わろうとも守り続けるべきものは守られ、そして伝承され、変化に対応すべきものを柔軟に取り入れ、成長・発展し、わが国の平和と安定に寄与してきました。

現在を自衛隊で生きる我々も先人の方々の思いを受け継ぎ、また、これから自衛隊を担ってゆく隊員、さらにはこれから自衛隊を志す未来の自衛

官達に託せるよう、隊員個々にそれぞれの持ち場でしっかりとバトンを受け継ぎ、そして送ること、連隊内の各職種部隊・師団各部隊・それぞれが所在する地域・自治体・官公庁などが持つ様々な力を結集させ、任務に当たることが大事なのだと偶然に出会った一枚の10円玉が再認識させてくれました。

連隊最先任上級曹長として、この思いを准曹士に伝え、連隊のさらなる発展に貢献する所存です。

なお、この「ギザ10」は、各部隊の最先任からいただいたチャレンジコインを飾っているコインスタンドの最中央に置きました。

頭号 男子
The Man of 1st Division「日々鍛錬・日々精進」
第1偵察戦闘大隊
柳澤 直哉 3等陸曹

今期の頭号男子は埼玉県出身の27歳、中学校から高校生まで陸上部で奮闘し、現在は第1偵察戦闘大隊戦闘中隊第1小隊小銃手として日々の訓練に励む柳澤3曹を紹介いたします。

Q1 入隊年度、入隊の動機は？

平成31年入隊、幼少期に駐屯地の近傍に住んでいた日々の訓練を見る機会があり、自然と自衛隊への憧れを抱いたことが動機です。

Q2 現在の職務と希望理由は？

現在は、小銃分隊の小銃手として勤務しています。機甲科（偵察）の希望理由は職種の特性上、多種多様な装備品を有し、

様々な状況下で訓練を実施できることに魅力を感じました。

Q3 最も思い出深い訓練はなんですか？

北海道トレーニングセンター（HTC）での訓練です。参加前から様々な状況を分析し、事前訓練を実施したことにより、敵中隊本部への襲撃に成功、本訓練は小隊や中隊のみならず他職種部隊との連携により得た成功体験として記憶しています。

Q4 休日の過ごし方と趣味は？

ドライブや映画鑑賞、最近は登山などアウトドアな休日を過ごしています。

Q5 今後の目標と抱負は？

レンジャー隊員になる

「何事にも意味がある」
第1師団司令部付隊
魚永 恵理 1等陸曹

ことです。今後は高い意識をもって自身の不足面を鍛え、レンジャー隊員として部隊に貢献したいです。

北海道トレーニングセンター（HTC）での訓練です。参加前から様々な状況を分析し、事前訓練を実施したことにより、敵中隊本部への襲撃に成功、本訓練は小隊や中隊のみならず他職種部隊との連携により得た成功体験として記憶しています。

Q1 思い出深い訓練は？

第1師団司令部第2部総括班で勤務する魚永1曹です。

魚永1曹は長崎県出身、平成21年4月に入隊し第16普通科連隊・幹部候補生学校・女性自衛官教育

隊・第1師団司令部付隊で勤務し、令和5年3月から司令部第2部総括班として第2部の円滑な業務運営に貢献しています。

Q2 趣味は？

旅行ですが現在はなかなか行けないため、子供がもう少し大きくなったから家族で遠出して楽しみたいです。

Q3 最後に一言

私が現在勤務できているのは、上司や同僚、先輩、友人、家族など多くの方々の支えあってこそだと感じています。

今後は、家庭と仕事の調和を図りつつ、第1師団司令部第2部で勤務していることの重要性を深く認識し、第2部長を始め関係上司の幕僚活動を全力で補佐したいです。